オーギュスト・ロダン

19世紀から20世紀初頭にかけて活躍したフランスの彫刻家。パリ生まれで10歳の頃から美術に興味をもち、装飾美術学校で学んだ後、さらに国立美術学校を目指すも三度失敗し、建築装飾の石工をしながら、彫刻はほとんど独学で習得した。1875年、イタリアに旅行してミケランジェロに影響を受けた。翌年、等身大の「青銅時代」をサロンに出品したが、あまりにも的確な描写力であったため、モデルから直接型を取ったと疑われ落選。その後、1890年、フランス政府からの委嘱で建設予定の国立美術館の門扉「地獄の門」に着手し、40年近く制作し続けたが、未完に終わっている。ロダンは、人間の内的な生命力にあふれた表現や、彫刻を塊としてとらえた量感表現によって、近代彫刻の父と称され、後に続く現代彫刻に多大な影響を与えた。代表作に「考える人」、「カレーの市民」など。